

「挑戦者」

国府津中学校 二年 相原 いよな

皆さんは、「パラリンピック」を見たことはありませんか？見たことがあるという人もいれば見たことがないという人もいるでしょう。実際に私も以前まで「パラリンピック」に興味がなくと聞いていいほどなかったうちの一人だ。

この夏ふと気になって見てみると、今まで何故見てこなかったんだろうと思う程心を引きつけられる試合ばかりだった。感動と興奮を覚えたと同時に、ひとつ疑問に思うことがあった。

四年に一度の平和の祭典「オリンピック」は日本でも各テレビ局でたくさん競技がそれぞれ放送されている。しかしパラリンピックはどうだろう、各テレビ局で放送されていると思っていたが放送されていない事に気づいた。どうしてオリンピックの様に放送されていないのだろうかと調べてみると、「躍動感や迫力を感じにくい」、「見ていると心が痛くなる」という記事を目にした。私は愕然とした。今の世の中ハンディキャップを持った人への差別や偏見は良くないと言っているのに「見ていると心が痛む」、「躍動感や迫力を感じにくい」という理由で放送される番組が制限されているということは不合理ではないか。今、世の中ではハンディキャップをなくすなどの多様性を認めたり、むしろそれを多様性と見ないことも取り組みとして行われている。だが、発信する側である情報局がオリンピックとパラリンピックの放送する数の差をうんでしまうと世の中のハンディキャップへの偏見はなくならないと思う。

また私たち以上に努力をし、試練を乗り越えた彼らに失礼だと思う。そして私たちは彼らを尊敬し見習うべきだと考える。

人それぞれ考え方や価値観が違うが私から見たパラリンピックは記事とは真逆のもので「もっと応援したい」どこにこの様なパワーがあるのかと思うくらい輝いてみた。

パラリンピックの選手はオリンピックの選手とは少し違い、厳しい現実をつきつけられた中で自分の居場所を見つけている。

生まれてきたときからハンディキャップを持っている人は周りの人から「かわいそう」などの偏見や同情を受けたり又突然の病気や事故でハンデを負った人は今までとはちがう新しい自分や新しい生活を受け入れなければならぬ。だから私はそれに乗れ越え、それぞれの個性をもちながら挑戦していく「挑戦者」たちが頑張っている姿を披露する舞台をオリンピックと同じくらい多くの人に見てほしい。そして彼らをもっと理解するべきで決して普通ではないと思うことのないようにしなければいけない。

彼らはその誇り高い勇姿で、しっかりと前を見、頂点を目指す唯一無二の存在なのであるから。